

令和５年度 県立竹園高等学校自己評価表

目指す学校像	個性と創造性の伸長を図り、社会の要請に応え得る広い視野と、磨かれた知性・たくましい体力・気力を合わせ持つ人材の育成を図るため、以下の項目を重点とした学校づくりを行う。 ○自己・他者・地域・国際社会などの多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに調和のとれた課題解決を図ることができる資質能力の育成を図る学校。 ○英語・日本語など複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重しながら協働して合意形成を図ることができる資質能力の育成を図る学校。 ○自国の文化や歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会の実現に向けて主体的に考えて行動できる人間の育成を図る学校。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに課題解決を図れる資質能力の育成 ・複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重しながら協働して合意形成を図ることができる資質能力の育成 ・自国の文化歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会に向けて主体的に考えて行動できる人間の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・県内の学習指導、進学指導を牽引するリーダー校として、学力向上の推進、難関大学及び医学部志望者への進路実現 ・国際科においては特に「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」のバランスが取れた育成を図る	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	・様々な分野に対して興味を持ち、探究心旺盛で、積極性・主体性に富む意欲のある生徒 ・国際的な諸問題に関心を持ち、英語等の言語及び異文化理解に努める生徒 ・自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・ICTを活用した授業運営を積極的に進め、「授業第一」をモットーに生徒が主体的に学習に取り組む指導を行った。 ・難関国公立大学進学希望者が増えていることから、適切な情報提供を努め、面接指導等を重視した丁寧な進学指導体制で取り組んでいる。今年度の国公立大学現役合格者は145名、東大は4名であった。 ・一方、国公立大学現役合格者数は令和3年度入試での200名をピークに下落しており、進路指導の強化が必要である。 ・生徒会や実行委員会により、学校行事の企画運営は生徒主体で行っている。部活動の加入率も高い。 ・教職員一人一人が、誇りと充実感をもって、熱心に教育活動に取り組んでいる。ICTによる業務の効率化、行事の精選を行っているが、全体的に多忙感否めない。 ・予算の効率的な執行とともに、校内環境等の整備を進めている。 ・本年度は、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導法を工夫し、組織的な授業改善に取り組む。	1 学習指導の充実と授業改善の推進	(1)アカデミックな授業ー竹高生がもつ「凄さ」(ポテンシャル)を「輝かせる」授業と教育活動ー ①教員、生徒がともに真摯に学びあう姿勢を追求する。 ②授業研究を推進し、鋭意工夫と改善を常に行い、高度な知識と教育スキル、教科指導力を兼ね備えた教員集団となる。相互授業見学(ちょい見)、生徒による授業評価の活用を通じて、授業改善を一層推進し、KPIとして「生徒による授業評価アンケート」における授業満足度の平均値3. 2以上を目指す。 ③竹園高校の学習指導の根幹である「授業第一」を貫き、授業を通じて生徒が学問に対する興味と関心を高め、将来の進路選択に向けて広い視野と幅を広げられるようにする。 ④生徒が「深い思考力や判断力、表現力」を身につけ、さらに高度な探究や視野の拡大につながる授業や学習活動(クロス・カリキュラム、チャレンジ・プロジェクト重点校の取組、探Q活動、ACEプログラム、SDGsの取組等)を行う。 ⑤教育改革の動向を見据えた学習指導体制、内容の見直しを進める。指導内容・方法の改善と充実を図る。 (2)主体的に学ぶ意欲・態度の育成ー生徒が能動的な学びに思う存分挑戦するー ⑥生徒が自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かって挑戦していく意欲を高める。 ⑦生徒に育成すべき資質・能力として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を常に意識して取り組む。 ⑧生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討するとともに、適切なアドバイス等を行う。 (3)探究を軸とした学びのスタイル改革とICT教育の推進	B
	2 進路指導の充実	⑨生徒の自己実現、「高い志」をもって進路目標が設定できるためのキャリア教育の充実を図る。 ⑩生徒の進路希望の実現に向けて、学校全体で組織的な支援を行う。 ⑪近年の大学入試の傾向を研究・理解し、生徒、保護者に適切に情報提供を行う。 ⑫新課程の大学入試(2025年度大学入試、経過措置も考えれば2024年度入試での対応も必要)を高大接続の視点で見直し、本校の課題を明確にして教育活動の見直しを進める。 ⑬生徒・保護者の進路希望を確実に実現するとともに、地域社会の期待に応える進路指導を行う。	B

	3 豊かな人間性と心身のたくましさの育成	⑭本校で学ぶ生徒は、将来、「知・徳・体」のバランスがとれたリーダーとなり、地域社会はもとより、日本、世界の発展に貢献していく人材となる。 ⑮本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動、学校外活動等を通じて、互いの違いや多様性を認め合い、協力・協働するなかで自分の可能性を見だし、「高い志」をもって何事にも挑戦していくたくましい心身を育成する。 (1)学校行事・部活動・課外活動・学校外活動とキャリア・パスポートの活用 ⑯学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮して、自己肯定感や自己有用感を高めることができるよう支援を行う。 ⑰各種コンクール、コンテストや課外での行事、地域社会での行事やボランティア活動等に積極的な参加を促していく。 (2)人権教育・教育相談の充実 ⑰「生徒一人一人を大切に、人権が尊重された教育活動」を基盤におき、すべての教育活動において「自分を大切にし、他者を大切に、多様性を認め、そのなかで自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。 ⑱生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有、SCとの連携を一層充実させる。	B
	4 グローバルリーダーの育成	⑲国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、地域社会(SDGs未来都市つくば)や大学との連携を通じた教育活動を行う。 ⑳英語の4技能をバランス良く育成し、英語によるコミュニケーション能力の一層の伸張を図る。 (1)コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成 ㉑授業を中心とするさまざまな学習活動のなかで、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論できる力を育成する。 (2)地域社会との連携、高大連携の充実 ㉒地域社会との連携、高大連携を通じて、国際的な視点で最先端の知識に触れるとともに、国際的な社会課題やその課題解決に向けた意欲を高める。	B
	5 学習環境の整備と生活規律の向上	(1)学習環境の整備 ㉓生徒の主体的な実践を通して校内美化を徹底し、清々しく過ごせる学習環境をつくる。 ㉔新型コロナウイルス拡大防止対策を徹底する。 (2)生活規律の向上 ㉕生徒が自らよき生活習慣、生活規律を確立し、学習、部活動、課外活動、学校外活動等に健康的にバランス良く取り組むことができるよう支援を行う。 ㉖生徒の自己管理能力の育成。 ㉗生徒会、各委員会活動など、生徒主体で積極的な活動を促す。	B
	6 情報発信の充実と開かれた学校づくりの推進	㉘本校を取り巻く教育環境の変化に積極果敢に対応して、全校体制で広報活動を実践する。 ㉙学校WEBページを充実させ、教育活動の様子や「頑張る竹高生」の姿を発信する。 ㉚学校説明会や学校公開を充実させ、本校の魅力をPRし志願者の一層の確保を図る。 ㉛本校の教育に理解と共感を抱く保護者、生徒の拡大を図り、「竹園高校で学びたい」という意欲旺盛な生徒の獲得を目指す。	B
	7 働き方改革の推進と職場環境のさらなる改善	㉜自分の仕事に誇りを持ち、働きがいを感じ、教員自らが成長できる職場環境の実現を目指す。 ㉝学年、校務分掌、教科等の枠を越えた協働体制を整える。 ㉞教員が専門的知識や教育スキルを高めるため、生徒と向き合う時間を確保するため、業務の見直しを行い、超過勤務時間の縮減に取り組む。	B
	8 コンプライアンスの遵守	㉟厳正な規律と高い倫理感を持って職務に精励することで、生徒・保護者・地域社会から信頼され続ける学校づくりを推進する。 ㊱教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、厳正な規律をもって服務規律を遵守して職務に取り組む。	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の充実を図る。	学習計画に基づき計画的に授業を実施し、新課程における共通テストを見据えた学力の育成を図る。③④⑤	A	A	・予習復習の徹底を図り、基礎学力の向上を目指す。 ・難関大学対策の指導をより充実させる。 ・小論文指導を更に充実させる。 ・読書習慣の定着を図る。
			小テストを実施し、基礎学力の定着と予習復習の習慣を身に付けさせる。⑥⑧	A		
			生徒の理解度に応じて個別に働きかけ、学習意欲を喚起する。①⑧	B		
		発展的学力の向上を図る。	国語を適切に表現し的確に理解する能力を身に付けさせるとともに、論理的思考力及び表現力を伸ばすために、主体的・対話的な授業展開を工夫し、また授業改善を目指し、国語科の教員間で研究する。②⑦	B	B	
			問題集を精選し、その取り組みを促すことで、自学自習の態度を身に付けさせるとともに、確かな学力の向上を図る。⑥	A		
			難関大学入試問題に対応できる国語力育成のために、論述問題や小論文指導の充実を図る。⑧⑩⑪	B		
	地歴公民	指導方法の工夫改善に努め、授業を軸とした基礎学力の定着を図る。	学習指導計画に基づき授業を実施し、授業を軸とした学習サイクルを確立することで、基礎学力の定着を図る。①③	A	A	・3年生の公民の選択や単位が変わることや、地歴の総合・探究の新課程入試に向けて、指導方法をよく検討する。
			教科内で授業研修を行い、ICTを活用した授業展開による生徒の能動的な学びを促す授業づくりができていますか検証を行い、授業改善を試みる②	B		
		教科間で連携し、発展的学力の向上に努める。	歴史的・地理的・公民的視野に立った思考力を育成するため、授業における主体的・対話的で、深い学びの取り組みや論述問題を取り入れた考查等を実践する。②⑥⑦	A	A	
			教科間で連携をとり、大学入試に対応できる発展的学力の育成を目指す。⑤	A		
	数学	新課程入試に対応出来る授業内容の充実を図り、思考力の育成に努める。	教科担当者間で教材を共有し、相互授業見学等を行い、授業の進め方、情報交換、授業研究を通して授業の改善を図る。②⑤	A	A	・全学年が新課程となる為、新課程入試に向けて、指導法や教材の再検討を行う。
			クロスカリキュラム、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体的かつ対話的な学ぶ姿勢を作り、教員、生徒がともに真摯に学び合う姿勢を追求する。①④⑥②②	B		
			各考查及び模擬試験により学力の定着度合いを分析して、その結果を指導に生かす。⑥	A		
			新課程入試における共通テスト、大学入試Aに対応出来るような授業の見直しを進める。⑫	A		
			関連する発展的内容を扱い、思考力と成績上位層の育成に努める。③⑪	A		
				A		
		学習習慣の定着を図る。	教科書傍用問題集を定期的に評価することで学習習慣の確立を促す。⑥②⑥	A	A	
			各学年で課題(小テスト、章末テスト等)を設定することで、復習内容の高質化を図る。⑧	A		
			長期休業中の課題を工夫し、自学自習の習慣を確立させる。⑥⑧	A		
		基礎学力の向上を図る。	各考查後の解き直し(弱点ノート等)を徹底させることで、深い理解を促す。⑧	A	A	
			基礎学力が不十分な生徒に対して補習・追試を実施する。⑦	A		
			教員への質問を奨励し、個々の理解度に応じた対応を心掛ける。③⑧	A		
				A		
		理科	基礎学力の向上及び思考力や判断力・表現力の育成を図る。	真摯に学び合う姿勢を追求し、毎回の授業後の振り返りや課題、小テストの実施により、基礎学力の向上と学習習慣の定着を図る。①②③④	A	
	思考力・判断力・表現力の育成のために、クロスカリキュラム、アクティブ・ラーニングなどを積極的に導入し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をさらに進めていく。①②③④			B		
	授業第一主義を貫き、授業における発問の工夫や実験実習等の探究活動の工夫を通して、新課程入試にも対応する論理的思考力を育成する。また、生徒がICT機器を活用して実験・実習・観察などの結果をまとめて発表などを行うことで思考力・判断力・表現力を育成する。①③⑧⑩			A		
	電子黒板やタブレット等ICT機器を最大限に活用することにより、教科の指導法や教材の開発・工夫に努める。また、教材研究の効率化を図り、授業の質をさらに向上させる。③⑧⑮			A		
	A					

	SSHの継承と発展を図り、課題探究学習の充実を図る。	探究活動を中心とした理科の授業全般において、さらに高度な探究や視野の拡大につながる授業や学習活動を行い、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を養う。④⑥⑦⑧⑩	A	A	・探Qのテーマ設定が現実 に即したものが少なく、テ ーマ設定までに時間がか かる。前年度からの引継ぎ テーマも選択肢に入れて いく。
		実験・実習・観察などの場面において、実験方法を生徒自身が考え、実験結果を分析考察しながら、自ら探究的に学び、自学を進めやすくなるような新たな探究の方策を検討するとともに、適切なアドバイス等を行う。①③⑥⑦⑧	B		
保健体育	授業の充実を図る。	体育:生徒が主体的に活動する授業の実現とともに、個人技能の段階的な向上を目指し、各生徒へ適切なアドバイスを行えるようにする。また生涯スポーツの基盤づくりとして体力の維持増進を意識させ、仲間との交流を通じ各運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう授業改善を図る。②⑥	A	A	・生徒の授業評価の反映 および体力向上を図る授 業を継続する。
		保健:各単元の理解を深められるよう、視聴覚教材や実習を活用し授業改善を図る。また、観点別指導の周知・徹底を図り、「指導と評価の一体化」を図る。⑤	B		
	体育授業における事故防止に努める。	準備運動の徹底、道具の管理や使用方法などについて注意を促す。体調不良や怪我が起こった場合には、養護教諭と連携し迅速かつ適切な処置を行う。④	B	A	・熱中症予防やケガ等に気 をつけたカリキュラムを検 討する。(特に水泳)
		当日の天候やグランドコンディション等の状況に応じて授業で取り扱う種目を検討する。⑤	A		
		喚起、消毒、マスク等の新型コロナウイルス対策を感染状況によって、徹底し、感染拡大の防止に努める。⑤	A		
芸術	授業内容の充実を図る。	幅広く芸術活動を紹介し、様々な表現方法を通じて、芸術のよさや美しさを感じ取り味わえるようにする。①	A	A	・生徒の授業評価の反映 および双方向授業の実践 に向けて研究を進める。 ・鑑賞教材の精選及び機 材の効果的な使用を研究 する。
		我が国及び諸外国の歴史や文化的背景などとの関わり及び多様性を学び、それぞれの芸術文化についての理解を深め、多様な価値観を認め合う資質や能力を育成する。⑩	A		
		生徒の興味関心をアンケート等でリサーチして、充実感の高い授業内容・題材を精選・検討する。②	B		
	基本的な知識や技能を身につけ、表現の能力を伸ばす。	生徒個人の表現能力や進捗状況を的確に把握できるように観察し、適宜個別指導を丁寧に行う。⑥⑦⑧	A	A	・机間巡視やワークシート 等の添削指導を通して 個々への対応ができた。今 後も継続していきたい。
		様々な表現の諸活動を通じ、各自表現したい内容を確認して表現方法を決める。⑥	A		
		主体的・協働的に表現の諸活動に取り組み、創意工夫を生かした表現活動をするに必要な技能を身に付けるようにする。⑥⑦⑩	A		
外国語	授業を中心とした基礎学力の定着	予習・授業・復習のサイクルを確立し、生徒たちが自らリフレクションとフィードバックを繰り返しながら自己の学習改善をしていけるように、常に一貫性のある教科指導を行う。③④⑥⑧⑨⑫	A	A	・学年・科目を超えた意見 交換に加えて、今後は各 学年で使用する教科書に についてもよく検討し、さら なる授業改善につなげてい きたい。
		定期的に学年・科目を超えた意見交換を行い、指導法や教材等を積極的に共有し、個々の授業改善につなげていく。②③⑨⑫	A		
	グローバルリーダーの育成を目指した思考力・表現力の向上	ACEプログラムの見直しと改良を図り、現代に求められるスキルとしての英語力向上を目指した教科指導法研究を継続していく。④⑦⑨	B	B	・ACEプログラムの実践だ けでなく、クロスカリキュラム 等も積極的に実施すること で、コミュニケーションツ ールとして英語を習得する という意識を生徒たちに強く 持たせていきたい。
		ACEプログラムにおけるプレゼンテーション・ディベート・模擬国連活動等を教科横断的に実践することで、グローバルな社会課題を自分事として捉え、コミュニケーション力を駆使して他と協働して解決していこうとする姿勢とそれに必要なスキルを身につけさせていく。④⑨⑫⑬	B		
	国際社会での活躍を見据えた外部検定試験等の活用	校外で受験する多様な外部検定試験を奨励し、自らのコミュニケーションスキルを常に俯瞰的な視野で把握し、大学受験突破に留まらず、これから実社会で必要とされる語学スキル習得を目標とした学びを継続させていく。⑦⑧⑨	B	B	
		新課程入試に対応できるよう、外部模試の検討会を実施する。⑫	B		

家庭	学習内容の精選と授業内容の改善を図る	グループでの活動・実習等の授業の中で、他者との対話を通して協働できるような授業展開に努める。⑮⑱	A	B	・生徒の授業評価の反映、 実験・実習の効率化	
		生徒の授業評価を活用し各単元の学習内容の精選と見直しを進めながら授業改善を図り、生活のあらゆる場面でよりよい意思決定ができるよう促す。②⑤⑦	B			
	一人の生活者として必要な基本的な知識・技術力の向上を図る	自らの家庭生活の充実向上を図り生きるための「知識・技能」を養うため、衣製作実習や調理実習など体験学習を多く取り入れる。⑦	A	A		・ICT を活用した課題発表方法について研修する。
		ホームプロジェクトの実践と発表・相互評価を通して、主体的に生活課題を解決する力を養う。⑥⑱	B			
情報	基礎的な PC の扱い方や基礎学力の向上及び、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	授業では PC での作業を必ず取り入れ、知識及び技能の向上を図る。④⑦	A	A	・学んだ内容を実社会の問題と結びつけた授業を実施する。	
		調べ学習を取り入れ、グループワークやプレゼンテーションを通して思考力・判断力・表現力の総合的な育成を図る。⑥⑦	A			
	予測困難な社会に主体的に関わり、問題発見能力、解決力の向上を図る。	授業で学んだ知識を用いて、現代社会の問題点を発見し、解決するまでのプロセスを PDCA サイクルをもとに進め、主体的で深い探究活動を行う。①③	B	B		
教務	生徒の能動的学習意欲を喚起する。	年間計画(シラバス)を提示し、生徒の計画的・主体的学習に役立てる。①②③	A	A	・相互授業参観、授業改善の励行。 ・カリキュラムマネジメントの研究。 ・観点別評価の研究・推進。 ・校内 ICT 研修の更なる充実。 ・ホームページの更なる充実。 ・本校 PR 活動の更なる推進。 ・学校備品の準備を計画的に実施する。	
		観点別学習評価を明示して生徒の学習の実現状況を適切に評価し、その評価を指導に生かす。②⑤⑦	A			
	教科の指導力向上を図る。	授業参観の機会を設定し、指導方法の工夫・改善を図る。①②⑥	B	B		
	日常の業務を円滑に遂行する。	出張・年休等による授業変更を円滑に行い、授業時間の確保に努める。③④	A	B		
		欠席・遅刻・早退・忌引等について、出席簿や白板への記入漏れ防止に努める。③⑦	B			
		印刷機やコピー機等の使用に際して、用紙等の節約やリサイクルに努める。③③	B			
	職員室や教室等の環境整備に努める。	職員室・印刷室内の整理整頓、備品等の管理・保全に努める。③③	B	B		
		各教室や特別教室等の環境整備(机、椅子、情報機器、蛍光灯等)に努める。②④	A			
	迅速かつ正確な情報発信に努める。	学校案内パンフレット等を工夫し、魅力ある竹園高校をアピールできるようにする。③②	A	A		
		学校説明会や授業公開等を通してPR活動を積極的に行い、本校の特色を正しく伝えるとともに、参加者の増加に努める。③①	A			
	ICT を活用して、竹園高校の活性化に努める。	ICTを活用した授業展開・HR活動等の推進を図る。⑥⑧	A	A		
		学校WEBページの充実を図り、魅力ある竹園高校をアピールできるようにする。②⑨③⑩	A			
校務支援システムの運営を円滑に進める。③⑤		B				
教育課程編成を円滑に遂行する。	各教科からの要望に配慮しつつ、本校の将来構想に沿った教育課程の編成に努める。③④⑤⑤	A	A			
生徒指導	基本的生活習慣の確立に努める。	学校内外での挨拶を教員が率先して行う。④④⑱	B	B	・生徒が自ら進んで挨拶ができるように、教員側から率先した働きかけを継続していく。	
		中学校と連携して登校指導を行う。④④⑱	A			
		服装・頭髪について適宜指導する。④④⑱	B			
	交通ルールの指導やマナーの向上に努める。	警察署と連携し、交通安全やマナー向上の教育を実施する。④④⑱	A	B	・中学校と連携しての登校指導は継続し、交通ルールやマナーの向上に努めたい。	
		自転車についての指導を適宜行いヘルメットの着用を促す。交通安全教室を実施する。④④⑱	B			
		竹園地区マナーアップ推進事業に積極的に協力する。④④⑱	B			
	安全管理意識を高揚させ、事故防止に努める。	保護者や関連機関との親密な連携を保つ。④④⑱	A	A		
		近隣で起きた事件・事故の情報を速やかに全生徒に情報提供する。④④⑱	B			
		薬物乱用防止教室やケータイ・ネット安全利用の講習会を開催する。④④⑱	A			
	豊かでたくましい人間性を育てる。	集会・HR・授業など多くの場で、多様な形態で心の教育を行う。④④⑱	B	B		

進路指導	生徒の適性をとらえ、生徒一人一人のキャリア発達を促す。	各学年と連携することで、生徒の適性の把握に努めるとともに生徒との進路相談等を実施し、生徒の進路実現を支援する。⑧⑨⑩	A	A	・各学年と連携をより密にし、面接指導等を重視した丁寧な進路指導を深化させる。 ・模擬講義や職場体験等のキャリア教育を充実させることで、生徒の自己実現を支援する。 ・難関国公立大学や新課程入試の情報を収集し、生徒・保護者への情報提供を充実させていく。
		模擬試験の結果について分析を行うことで、生徒の学力の把握に努める。⑨⑩	B		
		大学教員による学部学科紹介模擬授業の実施、一日医師体験等への参加を促すことで、生徒のキャリア形成を図る。⑥⑨⑬	A		
		朝や放課後等の学習館の利用促進をはかり、生徒の自学自習の態度を育成する。⑧⑩	A		
		県の医学部進学支援に基づき、医学部医学科進学希望者への支援を計画的に行う。⑨⑬	A		
	適切な進路情報を提供する。	進路研究会や進路情報交換会、出願検討会等を実施することで、進路情報を学校全体で共有し、生徒・保護者に進路情報の提供を行う。⑪⑫	A	B	
大学説明会や進路研究会等に参加することで、各大学の入試の変更点や新課程入試等についての情報を収集し、生徒・保護者に提供する。⑪⑫⑬		B			
大学合格者数等進路に関する統計をもとに進路要覧を作成することで、本校の進路状況を生徒・保護者に提供する。⑪⑫		B			
保健厚生	生徒の心身の健康状況を把握して、生徒自らが健康課題を解決できるように努める。	定期健康診断や身体測定を通して、生徒自身の発達や健康状態を知り、健康管理能力を高める。②⑥⑦	A	A	
		保健室の利用状況等から配慮の必要な生徒の情報を学校全体で共有する。⑱	A		
		健康観察フォームの入力の徹底を呼びかけ、自律的な生活態度を養う。②⑥⑦	B		
	健康・安全教育を通して、生徒の心の教育を充実させる。	防災訓練実施し、講演や安全体験を通じて防災意識の高揚や、非常時の適切な行動の必要性を学ばせる。⑦	A	A	
		AED 装置を迅速に正しく扱えるよう教員向 AED 講習会を実施する。3年に一度の受講を促す。⑭	A		
	学習環境の整備を図る。	温湿度計やサーキュレーターを設置と活用により、教室の適切な換気・温度管理や衛生管理を自らできるように促す。②⑦	B	B	
清潔な環境維持と豊かな心を育むため、整美委員の活用によるペットボトル等の回収リサイクルや校内美化を促進する。⑪⑭⑮		B			
図書	探究学習に役立つ図書利用の充実を図るとともに、利用しやすい図書館を目指す。	授業での図書館利用や図書の購入・廃棄に関して、各教科との連携をより一層密にし、本校の教育活動を考慮した購入につとめ、古い図書資料の除籍・更新を行う。⑥⑦⑧⑳	A	A	・本校の教育課程を考慮して、探究活動・スタディツアー・小論文に利用できる図書の購入を行い、コーナーを設置した。 ・図書委員編集の図書館報の配信を年5回行った。 ・委員会では購入図書を選定し、文化祭ではバザーを行った。
		新着図書や推薦図書などの広報活動をICTを利用して行う。③⑩	A		
		図書委員会において、カウンター当番、年5回程度の館報の発行、年3回の購入図書選定などの活動を行う。⑮⑯㉑	A		
	図書館利用におけるマナーを向上させる。	図書の無断持ち出しや延滞をしないように指導し、延滞者には年3回督促状を出す。⑦	A	A	
渉外	PTA活動の円滑な運営を図る。情報発信の充実を図り、本校渉外部職員と本部役員、支部役員との連絡を密にする。	本部役員会や各種専門委員会の積極的な活動を支援する。②⑨⑳㉑	A	A	・PTA総会の実施に際して、書面決議を経ての全体への報告を初めて試みた。効率よく進行することができ、今後もこの方法を継続していきたい。
		本部役員の選出にあたり、中心となって、本部を運営する方を広く募っていく。㉒	A		
		PTAのホームページを充実させPTA活動の様子を発信する。㉓	A		
		支部活動が充実したものとなるよう支援する。㉔	A		
		円滑な支部活動のため、支部PTA地域区分の改変を進めていく。㉔㉕	A		
		支部長の年間の活動を伝えていき、本校職員との連携を密にしていく。㉔	A		
	生徒・保護者の視野を広めるための活動に取り組む。	「進路セミナー」「家庭教育講座」が有意義に実施されるようセミナー委員会と協力し、企画・運営する。⑩⑬㉖	A	A	・各地区の支部会等にも多くの教員が参加し、活発な
		生徒の進路希望の実現に向けて、支援を行う。⑩	A		

		PTA広報紙「樟の木」を広報委員会と協力して発行し、広報紙を通じてPTAや生徒の活動が会員の間でより身近になるようにする。 ③③②	A		意見交換が交わされた。
	PTAの主体的な活動への協力を行い、信頼関係を構築し、ともに生徒のよりよい学校生活を支援していくよう努める。	支部会の活動に多くの教職員が積極的に関わり、保護者と率直な意見交換を行い生徒の教育活動に生かせるようにする。 ③④	A	A	・本部役員、支部役員の選考に際して、各支部の負担軽減を検討する。
		学習環境の整備や生徒の生活規律の向上のため、支部会で取り上げられた意見を、本校の教育活動に活かしていく。 ②④②⑥	A		
		本部役員、支部 PTA との円滑な連携を図り、コンプライアンスを遵守し、信頼され活動を推進する。③②③⑥③⑦	A		
教育相談	教育相談の広報活動と教員の理解向上を推進する。	「相談部だより」の定期発行（11 回）し、また関係機関の広報を行う。②⑥②⑦	A	A	・組織的な支援体制の充実を図る。
		生徒理解のための研修会を実施する。②⑤②⑥	A		
	組織的・計画的な教育相談を実施する。	スクールカウンセラーとの連絡を密にし、カウンセリングが円滑に実施できるよう調整する。①⑧①⑨②⑤	A	A	・生徒指導部との連携を図る。
		生徒の支援のため、ケース会議を実施し、情報共有し、組織的な支援体制を推進する。①⑧①⑨	B		
		各学年・他分掌と連携し、必要に応じて、ソーシャルワーカー派遣制度等を活用する。①⑧①⑨	A		
特別活動	豊かな人間性を養うため、生徒会や委員会、部活動などの教科外活動を充実させる。	学校行事の在り方を研究し、各学年・各校務分掌と連携して取り組む。竹高生であることの誇りと自覚を持って、学校行事に取り組む姿勢を養い、キャリア・パスポートを活用しながら、自走する生徒を育成する。①⑤①⑥	B	A	・学校行事についてはコロナ禍を経験して上手いかなかった部分もあるが今後に向けて改善も含め様々な気づきがあったので来年度以降に生かしたい。 ・部活動の運営や仕組みについては今年度の問題点を改善できるように策を講じたい。
		部活動や委員会への積極的な参加を促し、活動を通して個性の伸長と豊かな人間性を育てる。①⑥①⑦②⑧	A		
	グローバルリーダーの育成を推進する。	生徒会や部活動、委員会活動を通して、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し、自分の意見を交えてしっかりと議論できる力を育成する。②	A	A	
探究国際	課題解決のスキル獲得のための企画立案・運営を行う。	国際科・各教科・各学年・各分掌や、他の機関(学校・研究所等)との連携・協力のもと、県の「チャレンジ・プロジェクト」事業や日本政策金融公庫の「ビジネスプラン・グランプリ」を活用して「自走する生徒」育成のための企画立案・運営を行う。④⑥①⑦	A	A	・2年生普通科探 Q での外部連携を強化する。
	自ら問いを立て、課題解決のための資質・能力の育成を図る。	1 学年との連携により、「探Q基礎」の中で探究の思考・手法を身に付け協働の喜びを感じさせる。④⑥①⑤	B	A	・探 Q 活動を充実させるために、最終発表会の時期を2月上旬にする。 ・継続して校外活動の情報発信を行い、生徒の活動の充実を図る。
		1 学年や筑波大学と連携し、「課題解決型」の探Q基礎のプログラムを確立する。④⑥⑨①⑤②③	B		
		2 学年・外部と連携し、個々の興味関心を重視した普通科探Qの内容の充実に努める。④⑥⑨②③①⑤	A		
		国際科・外部指導員・外部と連携し、国際科探Qの内容の充実に努める。④⑥⑨②③①⑤	A		
		探Q発表会の内容の充実に努めるとともに、探Qを学校行事として生徒主体の運営を確立させる。④①①⑥	A		
	グローバルな視野を持ち、行動する人材育成を図る。	次年度に実施するスタディツアーの業者選定を1 学年と保護者と連携し、円滑に行う。②①②③	A	A	・海外でのボランティアや研修の案内を積極的に発信し、生徒のグローバルな活動を推進する。
		活動をととして諸外国の課題を自分事として捉え、課題解決のため行動できる人材を育成する。④①②①②③	B		
		海外への留学や進学を希望する生徒を増やす。⑨①④①⑦②①	A		
	社会と自己の関わりを考えるため学校間交流等を実施する。	探究をより多くの生徒に有意義なものにするため、4 校合同探究交流会への発表生徒を1・2 年生とする。④①⑤	B	A	
		子ども会議などとおした SDGs 活動で竹園地区およびつくば市と連携する。④①⑤②③	A		
		生徒の取り組みを学校 HP、SNS、新聞などに 20 以上掲載する。③①	A		
国際科	学科選択の支援	第 1 学年と連携し、国際科に対する職員間の共通理解を図る。①①	A	A	・国際科の更なる魅力発信。
		生徒が国際科の特色を理解できるよう説明会、ガイダンス、個別面談を実施する。③①③②	A		

	国際理解教育の推進	探究国際部、教科、学年等と連携し、留学や国際交流プログラムを推進する。⑳㉓	B	B	・国際交流の更なる推進。
		生徒が国際交流に興味関心を抱き、実行に移せるようホームページ等とおして情報提供及び支援を行う。㉔㉕㉖	B		
第1学年	基本的生活習慣の育成	挨拶を励行し、服装指導、清掃指導を徹底し、社会規範と個性の調和のとれた行動を促す。 ⑮⑯⑰	B	B	・継続して挨拶・遅刻・欠席指導を徹底していく。
		朝の登校指導や個人面談を通し、欠席、遅刻をさせない指導を徹底し、基本的生活習慣を身につけさせる。 ⑱⑲	A		
		長欠の生徒には、学年の教員全体で善後策を講じ、問題解決に努める。⑳	A		
		探究基礎や道徳の授業を学年職員が協力して行うことで、心の成長を促す⑮⑱。	B		
		各種学校行事およびHR活動を通して、クラスの団結を促し、相手を尊重する心や協力しあう姿勢を育むとともに、規範意識を高める。 ⑭⑮⑯	A		
	「授業第一主義」を軸とした学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	予習→授業→復習の黄金サイクルの重要性を意識させるとともに、家庭学習時間平日3時間・休日5時間の定着を図る。 ①③④⑥⑦⑧	B	A	・引き続き家庭学習の習慣の定着を図る。個別面談を利用して個々における助言を大切にする。
		大学入学共通テストへの対応を念頭に、思考力・記述力を高める授業スタイルを積極的に取り入れ、応用・発展へと広がりのある授業を展開する。①②③④⑤⑫	A		
		手帳に、起床、学習開始、就寝時間を記録する習慣をつけさせ、さらに学習時間に見える化させる。⑥⑧	B		
		小テスト等を活用し週末の学習を促すとともに、成績不振者の早期発見ときめ細かな指導に努める。また、成績最上位者の指導にも努める。①⑥⑧	A		
		個人面談等を利用し、生徒理解に努めるとともに、学習について適切な指導や援助を行う。 ⑥⑦⑧	A		
	自己理解と進路意識の高揚	文理及び学科選択について、HR で情報を提供し、面談を通して生徒個々の希望・適性に応じた指導を行う。 ⑨⑩⑪	A	A	・高い目標設定を持たせ実現のための支援を引き続き色々な角度からしていく。
		進路情報誌などを活用して進路への興味・関心を高め、自ら情報を収集できる生徒を育成する。⑨⑩⑪	A		
		探究活動・大学キャンパスツアー等を通して、より高い進路の意識付けを行うとともに、社会の一員としての自覚を持たせ、自己のあるべき姿を考えさせる。 ⑨⑩⑪	A		
		進路講演会や卒業生による講演等を実施し、より現実的に自分の進路について考える契機をつくる。 ⑨⑩⑪	A		
第2学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚と社会に対する幅広い関心・理解の促進を図る。	挨拶や服装の指導を行うとともに、早い時間の登校を徹底し、規則正しい生活を促す。また、校舎内外の清掃に努め、健康的で学習に集中できる生活習慣を確立させる。⑭⑳㉔㉕㉖	B	A	・一人一人計画的な生活を実践し、自己管理能力を向上させる必要がある。
		スタディツアーや尚志祭等の学校行事に積極的に取り組んでいくことで、規範意識を高めるとともに、生徒一人一人の主体的・積極的な活動を促す。 ⑦⑮⑯⑳	A		
		探Q活動に取り組むことによって、多角的な視点を持ち、社会的な諸問題に対する関心・理解を深め、問題解決能力を育み、人間的成長を促す。④⑥⑦⑳㉔	A		
	授業を軸とした学習習慣の確立と学力の定着及び思考力・判断力・表現力の育成を図る。	授業の重要性を意識させ、予習・復習を促すとともに、小テストを活用し、学習時間を確保させる。また、個人面談を通して家庭学習習慣の確立や自己管理能力の育成を図る。また、グループ活動とおして、他者と議論する力や自己の意見を発表する力を育む。その際必要に応じてICTを活用する。③④⑤⑥⑦㉔	A	B	・自らの進路について長期的に考えさせ、志望校を明確にして受験に取り組めるように、個人面談等を通じて、より自分の将来像に対する意識を高めさせる。
		成績不振者の早期発見に努め、適切な対策を講じ、支援する。⑥⑧	B		
	進路意識を高め進路目標の明確化を図る。	進路講演会・大学研究会・学年集会・学年通信等によって、適切に進路情報を提供し、自らの進路を主体的に選択しようとする姿勢を育む。 ⑨⑩⑪⑬	B	A	
		個人面談を密に行い、生徒との信頼関係を築くとともに、個に応じた適切な進路目標の設定を促す。⑨⑪⑬	A		

第3学年	規律ある生活習慣の維持 豊かな人間性と心身のたくましさの育成	朝の自学自習時間を大切にし、規則正しい生活を継続させる。清掃活動や委員会活動等において後輩の範となる生活態度を示せるよう指導・支援していく。 ②⑥⑦⑧	A	A	・精神的に不安定な生徒が多いので、さらなる支援を行っていく必要がある。 ・知識注入の指導から、主体的な学習への移行を進めていく必要がある。 ・ICT を有効活用した対話的な学びの促進とその結果分析に努める。 ・生徒だけではなく、保護者へも的確な進路情報の提供の必要性がある。
		尚志祭等の学校行事においてリーダーシップを発揮し、良き伝統を後輩へ引き継がせていく。学校行事への積極的な参加を通して知徳体のバランスの取れた人間的成長を促す。 ⑭⑮⑯	A		
	授業を軸とした能動的学習習慣の定着化	学校授業を基盤としつつも、課外授業や外部模試等を活用しながら、進路を踏まえた自己の興味関心に基づく主体的な学習へと発展させていけるよう学習の支援をする。 生徒の授業評価に対する肯定的な評価の割合80%を目指す。②④⑤	A	A	
		ICTを有効利用した対話的な学びを促進する授業を実践し、教科学習力のさらなる強化を目指す。 生徒の自学自習を進めるための方策を検討して、学年として適切なアドバイスを行う。⑥⑦⑧	B		
	進路実現の達成を目指す。	LHR・学年集会等においてこれまでの進路活動を振り返りながら、地域社会はもとより、日本、世界の発展に貢献していく人材になるために、自らの進路を主体的に実現しようとする姿勢を育む。 ⑨⑩⑬	A	B	
		ICT を有効に活用することで、近年の大学入試の傾向を研究・理解して生徒、保護者に適切な情報提供を行う。また、生徒・保護者の進路希望を実現するとともに、地域社会の期待に応える進路結果を目指す。⑪⑫⑬	B		
事務室	予算管理の適正化を図る。	不要予算の削減と必要予算の配分を行い、効果的な予算執行に則した配分を図る。	A	B	・各教室及び体育館等照明の LED 化を順次進めていく必要がある。 ・引き続き、効果的な予算執行に取り組み、教育環境の整備・充実に努める。
		水道料金については、毎日メーターを計測し、漏水の早期発見に努める。	A		
		電気料金については、デマンド監視装置及び教室の空調機器の集中制御機能の活用、LED 照明の順次導入により、節電を行う。	B		
	施設の安全と環境美化に取り組む。	日常的な点検を実施し、危険箇所の削減を図り、生徒・職員の安全な環境を保持する。	A	A	
	施設設備の整備計画の見直しを行う。	現状の課題と長期的視点を考慮し、効果的な施設の整備計画の見直しを行う。	A	A	

※ 評価規準：A 十分に目標を達成できた。 B ほぼ目標通りできた。 C 目標に届かず、成果が上がっていない。